

水道水のPFAS汚染に立ち上がった 豊山町民の取り組み〈愛知県〉

坪井 由実 (つばい・よしみ)
愛知県立大学名誉教授
豊山町民の生活と健康を守る会 共同代表

PFAS相談外来の開設

2021年3月17日、北名古屋水道企業団(豊山町と北名古屋市の一部事務組合)は、豊山配水場の浄水において、国が定めたPFASの暫定基準である50 ng/lの3倍も検出されたため地下水の汲み上げを中止した。以来、私たち住民は、豊山町と愛知県へ陳情や要請をしてきたが、行政は全く動こうとしなかった。身近な自治体が動かなければ、まずは自分たちで健康を守るしかない。京都大学の原田浩二先生の協力で血液を検査し、愛知県民主医療機関連合会の全面的支援で、「PFAS相談外来」の開設までこぎつけた。23年9月より、PFAS被ばく住民は、二つの病院で健康被害を予防するための半年ないし1年ごとの定期健診(腎エコー、甲状腺刺激ホルモンTSHの検査など)を受けている。

健康不安と怒り

豊山町では、7種PFASの合計で健康リスクがあるとされる20 ng/ml以上被ばくしている住民が、PFOA、PFOSなど4種合計だけでも同町豊場地区では37人中22人(60%)いた。豊山町全体では、50歳以上の2400人を超える住民が「特別な注意が必要」で健康が脅かされている。

ることになる。米国疾病予防センターの調査によれば、PFOSの血中濃度が中濃度(79~171 ng/ml)であつても、がんによる死亡リスクは1.26倍、心臓疾患は1.19倍になる。町民は不安に思い、怒っている。

豊山町の23年度の高齢者向け健康講座の資料によると、豊山町の死因別死亡者数は、全国平均を100とすると、男性は胃がん108、肺炎103、気管・肺がん102、女性では胃がん113、大腸がん105、くも膜下出血104だという。また、22年度の75歳以上の町民の健康診断受診結果の異常値の割合は、腹囲(男性85センチ、女性90センチ以上)では全国平均が13.9%に対して豊山町は38.8%、収縮時血圧が140以上は、全国平均が34.2%に対して44.0%だという。私たちは、県費による希望者の血液検査と、疫学的手法を用いたバイオモニタリング調査を実施するなかで、血液中のPFAS量の健康影響を調べ、住民の不安に添えていくことを求めている。

小牧基地の消火訓練場の除染 ——国・県・企業の責任を追求

23年8~9月はじめ、私たちは、豊山町とその周辺の井戸水と河川の30カ所でPFAS汚染状況を調査した。これにより、汚染源は自衛隊が使用していた泡消火剤であり、小牧基地の消火訓練場であることがはっきりした。豊山町は、面積の三分の一を、小牧基地、県営名古屋空港、三菱重工小牧南工場(F35やF2戦闘機の組立工場)に占められている。これら3機関は、自衛隊に消火訓練を委ね滑走路を共用している。したがって、消火訓練場の除染は、発生責任者である三者の共同によって処理されねばならない。現在も、消火訓練場一帯の土壌には、土壌中(通気帯)で酸化により分解されPFASを生ずる前駆体(レガシーPFAS)が大量に残存しており、数百年にわたり、PFASとなつて地下水に流れ出ていくという。

子どもや孫の世代には、安心、安全に過ごせるまちにしていきたい。豊山町民の生活と健康を守る会は、「地方自治の本旨」(憲法92条、住民の意思に基づく地方自治権の保障)と予防原則に基づき、これからも愛知県と豊山町に対して、PFAS汚染公害の発生責任、汚染拡大防止責任、救済責任を追究していく。